

## 北信越支部45周年に寄せて

(一社) 石川県設備設計監理協会  
会長 村島 外三雄



公益社団法人空気調和・衛生工学会 北信越支部が設立45周年を迎えることとなり、35周年がつい先頃に行われたように思う時、月日の経つのが早く感じられます。

私ごとで恐縮ですが、平成17年に特別会員に推薦され、今年は名誉会員に推挙されました。10年の間に空調衛生設備は時代の「要請」に相まって、格段の進歩を遂げて参りました。安全・安心・環境・省エネ等々、我々の責任は大変重くなって参っております。

しかしながら、リーマンショック以来、設備技術者を育成しなかったことが、今日の技術者不足を招いており、官民共に頭の痛いところです。

空衛学会は着実に技術革新の先頭に立ち技術的には成果を上げているようですが、世の中の実態は中堅技術者不足で悩ましい状況です。

新人を一から育てなければならず、空白期の人材育成を早急に取り戻さなければなりません。

空衛学会の果たす役割も重大です。周年を機に改めて「設備」とはどうあるべきか、官民を問わず協力して、どうすれば設備業界の向上に寄与できるか、問題は山積しております。

例えば、技術者の社会的地位、待遇改善等、設備業界（特に設計）全体の問題とし、空衛学会は何ができるか、もっと現実を直視し互いの「知恵」を出し合い、設備技術者の将来を真剣に考えようではありませんか。

私も北信越支部の支部長を経験したこともありますが、今までは交通の便の悪さ故、支部全体で行事を行うことが難しく、本部での支部活動の報告の折は、いつも「冷や汗」ものでした。毎回、地理的条件の悪さのため「各県単位で研修会等の行事を行なっています。」と歯切れの悪い報告しか出来ず困ったものでした。今年、念願の北陸新幹線が開通しどうやら北信越支部が一同に会して行事が行えるようになるのではないかと期待しているところです。

支部が一丸となって行動すればこの悩みから開放され、本部の中央集権的な運営手法に、支部の自主性を多少なりとも強調できるのではないかと期待しています。

これからは、若い人がどんどん学会をリードして行って貰いたいものです。

最後に北信越支部が設立45周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。